

びざん

10
月号

表紙写真は、川内支所
井澤一さん(63)、恭子さ
ん(60)夫妻。

撮影時の8月末は、お盆
前から続いた長雨の影響の
ため、稲刈りの作業は足踏
み状態でしたが、これから
精を出し作業を進めていく
とのことでした。井澤さん
は、「コシヒカリ2号と、カ
リフラワー13号の栽培を
行っています。

とても夫婦仲が良いお二
人は、ご結婚されてもうじ
き40年。

作業を一人で終わらせ帰
宅すると、一さんも一緒に
キッチンに立ち、料理のサ
ポートをしてくれるそうで
す。頼まなくても率先して
手伝ってくれるから、恭子
さんは非常に助かっている
そうです。

夫婦円満の秘訣は、言い
たいことは言い合ったり、
そして必ず、「ありがとう」
の気持ちをきちんと言葉で
伝えることも大切にしてい
るそうです。

夫婦二人三脚で農業を営
み、約20年。
「実るほど頭を垂れる稲穂
かな」

今年も頭を垂れた稲穂は
まるで何年たっても謙虚な
気持ちを忘れず、感謝を伝
え合ってお二人のように黄金
色に輝いていました。

JA NEWS 2021 NO.629

玄米まつり 販売実績過去最高数達成

当JAでは9月3日〜4日の2日間、管内10ヶ所
で「玄米まつり」を開催しました。当JA担当職員が、
1等米のうち食味計で一定値以上の数値が出た、選
りすぐりのコシヒカリの新米を販売しました。

今年も新聞広告やテレビCMなどでの告知を強化
したこと、初日の天候不良にも関わらず、前年
を上回る過去最高の販売実績(前年比120%)を
上げることができました。四国放送のニュースにも
イベントが報道され、「ニュースを観たので買いに来
た。」という声も多かったようです。イベントでは、
すだちや新商品「すだちぶっかけうどん」も販売さ
れ好評でした。

開催場所には多くの消費者が購入に訪れ「テレビ
CMで知った。新米が食べたくなって買いに来た。」と笑
顔を見せていました。密を避けるため、ドライブス
ルー方式で、職員が直接、購入いただいた商品を車
に運び入れました。営農経済部 経済課伊藤剛生課
長は「管内の生産者の方々が丹精込めて作った玄米
を、一人でも多くの方に味わってもらいたい。」と話
しました。



村へ旧嵯峨出張所 建屋を寄付 「村民のふれあいの場、防災拠点」に

当JAは旧嵯峨出張所の建造物を地域住民、佐那河
内村の活性化を目的とし、村へ寄付しました。

8月28日に村役場に贈呈式が行われ、松田清見組
合長、岩城福治村長らが出席しました。松田組合長は地
域の方々に喜んでもらえるよう活用いただきたい。今
後のさらなる躍進に期待している。」と挨拶し、岩城村
長へ目録を贈呈しました。今後、住民の活動・交流拠
点の他、災害時の避難場所・物資備蓄庫等、当地区防
災拠点として活用されます。

旧嵯峨出張所の事務所は、平成12年に建て替えられ、
鉄骨2階建、購買倉庫を併せ537㎡の施設です。事
務所、購買倉庫、石油貯蔵庫として運営され、しいた
げ生産栽培施設が併設されており、令和元年に村より、
施設利用の申し出があったことから譲渡する運びとな
りました。現在、設置されているコイン精米機は今後
も当JAが運営を継続し、また、キウイフルーツの受
粉作業等も継続されます。

岩城村長は「村民の安心安全を守り地域の活性化に
繋がられるように、有効活用していきたい。」と話され
ました。

写真▶岩城村長(左)に目録を贈呈する松田組合長(右)



8/19 露地すだち品評会 最優秀賞に大沼さん

佐那河内村農業振興協議会は8月19日、佐那河内村で毎年恒例の露地すだちの品評会を開催しました。JA徳島市露地すだち部会から55点の出品があり、最優秀賞に大沼奈津代さんのすだちが選ばれました。徳島県東部農林水産局、全農とくしま、当JA担当者が審査を行い、外観が滑らかで緑色が濃く、色、粒ぞろいの良いものが上位に選定されました。優秀賞は、青木勝茂さん、北山勝敏さんらが受賞されました。佐那河内村農業振興協議会加藤秀数会長は、「年々、出品物の品質が向上してきている。生産者が切磋琢磨している結果だ。消費者に良いものを安心して提供できる態勢が整っていると自信を持てる。」と話されました。



※マスクの着用の無い写真が含まれますが、高温、多湿の環境下でのマスクの着用は、熱中症のリスクが高くなることから、屋外において十分な距離が確保できる場合にマスクを外しております。

8/6 コンバインセルフメンテナンス講習会

不動農機サービスセンターは、8月6日北部営農経済センターにて、これから本格的にスタートする稲刈りのシーズンに向け、コンバインのセルフメンテナンス講習会を開催しました。実際に2条刈コンバイン (ISEKI コンバイン HVB217G-ZKWC) をサンプルとして、使用者が自身で行う日常点検ができるように指導が行われました。

講習会は、コロナ感染対策として、各会30名を上限人数とし、3部構成で行われ、生産者約70名が参加しました。基本となるエンジンオイルが適量かどうかをはじめ、エンジン部分、刈取部、脱穀部、カッター部、電装関係、ベルト関係の6つの部分に分かれた、14のチェック項目のセルフメンテナンスシートの活用を推進し、チェック方法の説明がありました。

同センター敷内章課長は「シーズン前に未然にトラブル、故障を防げるように役立ててほしい。」と話しています。



8/10 アグリサポートセンター稲刈り受託作業 開始

アグリサポートセンターでは、生産者の稲刈りの受託作業が8月10日より始まりました。年々受託件数が増えつつあり、今年は8月中旬時点で約100件の申込みを受け付けており、昨年度を上回る勢いであり、コンバイン3台態勢で受付順に随時作業を進めています。昨年度の受託数は、141件で32%でした。これは、5年前に比べて受託数は28%増、面積は39%拡大しています。

受託件数の拡大は、生産者の高齢化や、所有するコンバイン等の農機が老朽化してきていることが背景にあり、100件のうち、約6割は田植えと稲刈りの両作業をセットで受託しています。

同センター栗野広志課長は「農地、食料維持のためにも、今後も組合員のサポートに努めていきたい。」と意気込んでいます。作業は10月上旬まで続く予定です。



8/5~ 米の検査 スタート

検査員が米の袋に穀刺を入れて米を取り出し、カルトンと呼ばれる白と黒の皿で米の着色や虫による食害、形質、未熟米の割合を目視で検査し、また水分量が適正かどうか測定を行いました。

麻植優治検査員は「全体的には品質良好です。お盆前からの長雨の影響で収穫の遅れ等もありますが、今後、晴れた日の照り込みで、生育が進んでくれることを願っています。」と話しました。



8/30 佐那河内支所 年金友の会 グランドゴルフ・ゲートボール大会

8月30日、佐那河内・嵯峨年金友の会のグランドゴルフ・ゲートボール大会が佐那河内中央運動公園で開催され、46名が参加しました。

村のコロナウイルス感染対策本部より注意事項等の情報を記載したパンフレットの配布を参加者に配布し、消毒液の設置等で感染予防を徹底し、また熱中症予防にも配慮し、こまめな水分補給をしていただけるように、注意喚起が行われました。

グランドゴルフ個人の部では、日下俊夫さん、松下秀治さん、森脇昌之さんが上位を修め表彰されました。また、ゲートボール団体では、桜チームが優勝、公友チームが準優勝トロフィーが贈呈されました。佐那河内年金友の会 森脇昌之会長は、「毎年、会員に人気のある大会なので今後も続けていきたい。」と話されました。





冷蔵スダチ予措作業 10月出荷に向け準備懸命

JA徳島市管内のスダチ生産者は、10月から始まる冷蔵すだちの出荷に向け、8月～9月に収穫するスダチを専用袋に入れて貯蔵する準備に励んでいます。

徳島市と佐那河内村で収穫したすだちを4～5日ほど屋内で陰干し(予措)し、しっかり空気を抜き、2kgずつに袋詰めし、低温貯蔵します。スダチの呼吸量を徐々に下げていくことで、鮮度を維持します。

冷蔵スダチは10月から翌年3月まで出荷が可能です。各生産者による個別冷蔵分は今年度、100トが出荷される見込みです。また、同JA果樹選果場の共同冷蔵庫に冷蔵される60トを合わせ、160トが出荷される見込みです。

(写真は冷蔵すだち部会の西藤英夫部会長の貯蔵庫の様子)

すだち加工スタート 今年度は一升瓶9万本を目標

農産工場では2日、すだちの加工作業がスタートしました。8月19日より集荷が開始しており、初日は約15トの果実を搾汁しました。一升瓶1本当たりすだち果汁約6kgを使用し、すだち果汁(100%)に加工されます。1日平均15～20トの搾汁で家庭用一升瓶(1.8ℓ)約3,300本分を製造しています。集荷は9月30日まで続き今年度は650トを見込んでおり、一升瓶換算で9万本を製造予定です。

すだち果汁は、秋の秋刀魚や冬のふぐ料理など用途は様々で、幅広く活用できると好評です。武田元成工場長は、「徳島の大地が育んだすだちの芳醇で爽やかな香りを、全国の方々にお届けできたら。」と期待を込めます。



さくらもいちご 株冷処理 共同冷蔵庫でスタート

佐那河内もいちご部会は、8月30日より果樹選果場の共同冷蔵庫での株冷処理(暗黒低温処理)を開始し、一部の生産者6戸がおよそ1,000個のコンテナに入りたいちごの苗24,000株が入庫されました。株冷処理(暗黒低温処理)は、いちご苗を低温処理することにより、花芽分化を促進させ、安定出荷を図ることを目的としており、毎年この時期に取り組んでいます。処理後は、花芽検鏡を実施し花芽分化の確認後に定植作業へと移ります。

現時点での集まった苗の生育は、8月中旬からの長雨の影響が心配されていましたが、天気が回復後、生産者の適切な栽培管理により生育状況は上々です。

14℃に保たれた冷蔵庫で管理され、9月中旬に花芽検鏡が実施されます。花芽分化の確認後、共同冷蔵庫より出された苗は、随時定植されます。

同部会 栗坂政史部会長は「花芽を揃え、定植後の管理が重要。残暑による高温や環境の変化に対応し、順調に生育してくれるように努めたい。」と話されました。今年の初出荷は、11月下旬を予定しています。



連載

～営農指導兼経済渉外員の活動をご紹介します



「経験が何より大切。」

第2回：南部営農経済センター
高橋 和輝 営農指導兼経済渉外員

「営農指導兼経済渉外員」に任命され、早2年。まるで少年のような可愛い容姿から愛称「ボーイ」と組合員の方々に親しまれている、佐那河内支所担当の高橋和輝営農指導兼経済渉外員は、毎日、組合員の方々の訪問活動や園地に足を運び奮闘しています。

私生活では家族と水稲を約50㍏ほど栽培し、また今年度、営農指導員の資格取得を目指し、講習会の積極的な参加や、日々の自主勉強など努力を重ねた結果、見事に一発合格できました。

高橋渉外員は、「今後も努力を継続したい。本で見た情報と、実際に現場に行き見て得るものは全く違うということは何度も経験してきた。

今後もさらに現場に足を運びたくさんのことを学び続けたい。」と意気込んでいます。組合員の方々への訪問活動について尋ねると、「皆さん、訪問すると喜んでくださったり、活動に対して感謝して下さることもあり、非常に励みになる。これから、営農指導兼経済渉外員として栽培指導がしっかりできるように学んでいきたい。そして、組合員の方々の農業所得向上にしっかり努めたい。」と向上心に満ち溢れています。

「目標は大先輩の長谷部技術主管。長谷部技術主管のように“先生”と組合員の方々に慕われる存在にいつかなりたい。」と話しています。



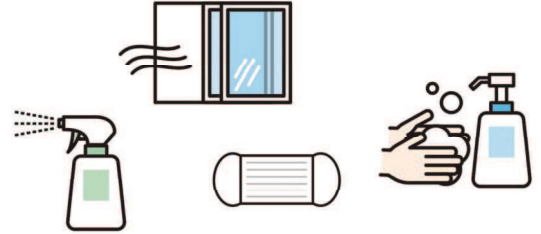
みなさん、こんにちは。徳島往診クリニックの吉田です。8月に入り、新型コロナウイルスのデルタ株が猛威を振るい、「感染爆発」が起こっています。重症者用ベッドも次々と埋まり、新型コロナウイルスに感染しても入院できず自宅療養を強いられることが当たり前の様な状況です。

今回はもし新型コロナウイルスに感染しても、自宅でやむをえず療養をしなくてはならなくなった場合についてお話ししたいと思います。

まず押さえておきたいのは、新型コロナウイルス感染症の特徴です。新型コロナウイルスは主に口や鼻からの飛沫でうつります。咳やくしゃみをした場合、特に空気が乾燥しているとウイルスが長時間空中に漂う可能性があります。

またウイルスがドアの取手や蛇口に取りついた場合、長いと数日間ウイルスが生きているため、別の家族が同じ場所に触れると手から口・鼻を通して感染してしまうことがあります。そのため、そのような箇所はアルコールでしっかり消毒することが大切です。

新型コロナウイルスに感染しても、軽症の場合は10日～14日間程度の自宅療養を指示され、その間外出はできませんので同居する家族がいる場合は、家庭内感染を防ぐ必要が出てきます。同じ居住空間で療養する場合は、まず第1に同居者と生活空間を分け別の部屋で生活することが肝要です。もし住宅事情により個室使用ができなければ、2メートル以上空けてカーテンなどで仕切りをしましょう。空气中に漂うウイルスを減らすためには、感染している方の部屋のみでなく全ての部屋を1時間に1回5～10分程度換気することが大切です。また、家の中でも常にマスクを着用し、頻繁に手指のアルコール消毒・手洗いをしましょう。鼻をかんだティッシュなどは、部屋から出す前にビニール袋に入れて密閉してから捨ててください。



トイレが複数あれば一つを感染した方専用に使えますが、共用する場合は特に注意が必要です。感染した方は、自室を出る前に手指をアルコール消毒し、マスクをつけましょう。新型コロナウイルスが便や尿の中に出ることは希であるとされていますが、念のためトイレの換気扇はつけっぱなしにして、流す時は蓋を閉めるようにしましょう。便座等はアルコールや薄めた漂白剤で消毒するといいでしょ。入浴は感染している方が最後になるようにして、入浴後は浴室内部をシャワーで洗い流し、窓を開けて換気しましょう。

感染した方がご家族のいるリビングに入ることは、アルコール消毒・マスク着用を守れば短時間ならそれほど問題はありせん。ただし、他のご家族とは最低でも1メートル、できれば1.5メートル以上距離を開けて下さい。

独居の場合は、食料品や飲み物、解熱剤等の備蓄が必要です。最近では重症化予防のため予めステロイドを処方してもらえますので、心配な方はかかりつけ医に相談しましょう。体温は最低でも1日2回測定することが必要です。非接触型の体温計の方がより速く測定でき、またご家族とも共用しやすいです。最近話題の、動脈血酸素飽和度測定のためのパルスオキシメーターも用意しましょう。インターネットで、5,000円～1万円程度のものを購入するといいです。酸素飽和度は健康人では98～99%ですが、96%以上あれば安心とされています。逆に「呼吸が苦しい」等の自覚症状がなくても93%以下になると心配です。発症から7日経ってから急激に肺炎が進行するケースも多く報告されていますので、油断せず毎日時間を決めて頻回に測定しましょう。肺炎以外で心配なのは血栓症です。血管内の血液が固まることにより、静脈血栓症・脳梗塞・心筋梗塞等の重大な合併症の懸念があります。脱水になるとさらに危険度が増しますので、しっかり水分を摂取するようにして下さい。

しかしなんとといっても、感染した方を独りにさせないことが一番大切です。直接顔を合わせる必要はありませんが、TV電話等で毎日何度か時間を決めて様子を尋ね、重症化の兆しが見えた時は直ちにかかりつけ医・保健所に連絡して下さい。



島田清弁護士の無料法律相談

通常通り開催いたしますが新型コロナウイルスの感染状況によりましては開催できない場合もございます。

日時 第3土曜日 9:00～12:00

金融共済部へ事前に予約が必要

申込先 ☎ 088-622-8003

場所 本所1階金融相談室

賀上延啓税理士事務所の無料税務相談

下記の通り開催予定ですが、新型コロナウイルスの感染状況によりましては、開催できない場合がございます。

日時 10月5日(火)、12日(火)、19日(火)
9:30～15:00

申込先 総務部へ事前に予約が必要
☎ 088-622-6335

場所 本所1階ローンセンター

理事会だより (令和3年8月25日)

協議事項

- (1) 令和3年度事業第1期施設整備工事計画について
- (2) JAグループ徳島合併協議会(仮称)への参画について
- (3) 3億円超の信用の供与について
- (4) 出資口数の一部減口について
- (5) その他



報告事項

- (1) 組織再編に係るご利用ガイドブックの配布について
- (2) 債権回収について
- (3) 職制規程「別表2業務分掌表」・「別表3職務権限表」の一部変更について
- (4) 前回総務・営農経済委員会および金融共済委員会の協議内容について
- (5) JAバンク徳島優遇プログラム規定の改正について
- (6) 理事会決議事項処理状況報告について
- (7) JA徳島市燃料サービス小売電気事業参入について
- (8) 令和3年度みのり監査法人による期中監査①の実施について
- (9) その他